

はやいもので・・・

本年も師走。年末になってしまいました。なんだか年々時間の経つのが早く感じられます。ついこないだお正月だったのに。子供の時には感じなかった感慨かもしれませんね。今年一年どんな年だったのでしょうか。宝泉寺では春の彼岸会から大本山南禅寺大遠諱、夏の盂蘭盆会、秋にはお施餓鬼会と例年以上に行事を多く行うことが出来ました。住職個人としては、大遠忌に一週間お勤めしたこと、年間通して震災復興支援の托鉢行を続けたこと、そして布教師として全国各地で色々な経験をさせてもらったことで、忙しいながらもとても充実した一年だったと思っています。

さてまもなく大晦日です。大晦日と言えば「除夜の鐘」古い一年を取り去って新しい一年を再び真っ白な気持ちで迎えるということから「一年を除く一夜」で除夜。108回鐘を撞くのは所謂人間の煩惱の数だそうです。眼・耳・鼻・舌・身・意の六識（感覚器官）それぞれに好（好き）・悪（嫌い）・平（どちらでもない）という感想を持って18種類。この18種類それぞれに浄（きれい）・染（きたない）の2類があって36類、この36類を過去現在未来の三時を掛けて108となるそうです。今年中に107回撞くのは「一年間煩惱に負けてきたナア」という反省の為。年が明けて最後の一つを撞くのは「今年こそ煩惱に負けないようにしよう」という決意表明。煩惱（欲望）は無くしてしまうことは出来ませんから上手くコントロールしていくことが大事です。私の新年最初の課題は、オトソとお雑煮の誘惑に勝つことです。

檀信徒の皆様が良いお年をお迎えくださいますように、宝泉寺一同心よりご祈念申し上げます。



11月3日 本年も盛大にお施餓鬼会が 厳修されました。

11月3日本年も盛大に**お施餓鬼会**が厳修されました。
沢山のお参りありがとうございました。
合わせて**宝泉寺オリジナル経本**を編纂しました。在家檀信徒のお参りに最適なようにつくりましたので、ご希望の方はどうぞお寺へお寄りください。
（お経の本ですから郵送は出来ませんヨ）



法話



のコーナー

先日大本山主催の法話会で京都に行ってきました。紅葉の美しい時期で、沢山の人が境内のモミジを楽しんでいました。南禅寺では去る4月に南院国師大遠諱が行われ、無事終えた後、当代住職である管長様に「何か記念品をお贈りしたい」という申し出があったそうです。管長様は「しかるべき植樹をしたい」と仰いました。良い樹を求めて方々訪ねると、鎌倉円覚寺に南院国師のお師匠である仏光国師お手植えの柏樹（びやくしん）の樹が残っているとのこと。早速譲り受け南禅寺の庭園に植樹し、南院国師の遺徳を偲ぶ記念としました（写真）寺院境内に植えられる樹木は、景観のためではなく、生命観溢れる木々と共に生き生きと修行に打ち込め、という叱咤激励が込められています。今回植えられた柏樹もこれから何百年と言う間、修行僧の励みになり続けることでしょう。

められています。今回植えられた柏樹もこれから何百年と言う間、修行僧の励みになり続けることでしょう。

さて柏樹の樹と言えば禅の世界では有名な話があります。ある修行僧が師匠に聞きました。「禅の本質とは何か」これに対して、師匠は一言「庭先に生えとる樹のようなもんじゃ」弟子はさらに「たとえ話でなくお答えください」しかし「庭先に生えとる樹じゃ」。いわゆる「禅問答」ですが、ここに登場する樹が柏樹の樹なのです。このお話の中で弟子は「禅の神髄とは尊く深淵であるはずだ」と思っています。だからありふれた庭木だと言う師の言葉に納得できないのです。これは尊い物と尊くない物、大事な物とありふれた物、という物事を二つに分ける考えに基づいています。すると良い方に固執して、他を顧みなかったり手に入らなかった時に怒ったしりてしまう。これを執着、煩惱と言うのです。師は、本来聖も俗もない、すべてが同じ尊い命を生きている。庭の木もお前も本当は仏と同じ命なのだ。その事を理解する為には「禅は尊く庭木は尊くない」という考えをやめよ、と言いたいのです。

禅の神髄とはあらゆる物が共に尊い仏の命であり、そこに区別差別などない、と言うことなのです。南禅寺境内のモミジは自分を美しく見せようと思っていない。枯れ葉となって落ちることを悲しんでもいない。ただ時期が来たら赤くなり風が吹けば舞い落ちる。粛々と行われる、ありのままの「自然」な命の在り様。 ➤



→ 命をそのままに生きすがたこそモミジの本当の美しさなのです。柏樹の若木と舞い散るモミジの姿は、僧堂で厳しい修行に明け暮れる若い雲水達を励ましながら、禅の本質をいつでも教えてくれています。今回の京都行で私も大いに励まされてきました。来年もまたあたえられた命をしっかり生きて、精進して行こうと思います。



{お} あいうえお用語辞典

応量器（おうりょうき）

禅僧が使う食器のセットのこと。大小 5 つの木椀で、すべての食事をこれで戴きます。持鉢（じはつ）とも言ひ袈裟衣と応量器だけが禅僧の私有物。修行の最初はこのお椀の扱いが難しい！準備の作法を間違ふと「こらあ！」ぶつけて音をさせても「コラァ！」食事の最後は熱いほうじ茶で椀を洗いそのお茶も飲んでしまいます。感謝の心で食材の命を余さず戴き尽くすための伝統です。

コラム

仏事に関する よもやま話



今からだいたい 10 年くらい前に「密葬」という言葉が流行しました。家族親族を中心とした少人数での通夜葬儀という意味合いで使われていたと思います。本来「密葬」というのは「本葬」を前提としています。生前のお付き合いの広い方にとって亡くなってすぐ行われる葬儀では、お知らせも準備も不足しがちです。そこで後日あらためて会場を整えて、沢山の人たちに参列してもらえように行われるのが本葬です。この二つはセットなんですね。当時「密葬でやります」という御葬家に「じゃあ本葬はいつ？」って聞いたらエッ？と言う顔されたのを覚えています。

親族での葬儀を密葬と呼ぶと都合がよろしくない、ということで考え出されたのが「家族葬」という呼び方です。実際は都内のある葬儀屋が考え出した言葉だそうです。テレビやインターネットなどで「新しい葬儀の形」など、肯定的に広まりました。「家族だけでゆっくり最後のお別れを」なんていう宣伝文句がありましたね。たしかにそういう面もあるかと思いますが、一気に広まったのはやはりお金と手間を掛けずに葬儀を出せるからだと思います。突然の不幸に出くわした親族にとって、これら省けるというのは確かにありがたいことだと思います。準備の仕方も分からないし、相談できる人も居ない、仕方ないのかもしれないなあ、とも思います。お寺としては、このような世間の流れに対して二つの点を危惧していました。

一つは葬儀が雑になってしまうということ。葬儀にお金を掛けないと言うことは葬儀社の収入も減るわけで、薄利多売方式にならざるを得ません。すると品質を下げるしかない。もう一つはやはり、生前のお付き合いを無視することになれば義理を欠くし、このままでは葬儀には「呼ばない」「出ない」というのが当たり前になって、人間関係の希薄な世の中になってしまうんじゃないかということ。

最初の点については、家族葬が流行りだしてから 10 年でほぼ当たりました。粗雑な飾り物や会場設営、経験の浅い派遣社員だけでパッパッと進められる葬儀ではとても「厳粛な儀式」も「きちんとしたお別れ」など出来ません。司祭者としてはとても悲しい事です。

もう一つの点については半分当たって半分ハズレ。「葬儀のお知らせをしなかった方々も後日お参りに来てくれた。」というお話を聞きました。たとえ葬儀に参列できなくても、やっぱりみんな親しい知人が亡くなれば別れのご挨拶はしたいのだな、義理人情はまだ大丈夫だなと安堵もしました。やっぱり仲の良かった友達が亡くなったと聞けばやっぱりお線香の一本もお供えしたいですね。しかし「葬儀後おしかりを受けたり、知り合いの方が連日お悔やみに来て、しばらく買い物にも行けなかった」「お香典を後日送って頂いたがその都度香典返しの手配をしなければならずかえって大変」という声も沢山聞きました。結局、家族葬でも手間もお金も掛かるみたいです。手間も出費も後回しにせず一度で済んで、尚且つ義理も欠かさず、厳粛な儀式もできる、一番都合が良いのは従来のやり方だと思うようになりました。

「簡単で安い家族葬」という看板は実は「偽りあり」です。儀式進行は住職として責任を持って遂行しますから、葬儀に関してはネットや雑誌で葬儀社を選ぶ前に、どうかお寺に相談してください。それぞれにあったお葬儀と一緒に準備し、考えます。規模の大小、掛けられる費用は千差万別。大事なものは亡き人に敬意を持ってお別れできるかどうか。そして穏やかに仏を偲ぶ生活を送れるかどうかです。もう一度よく考えて吟味する頃合いになってきたと思います。

編集後記

愛玩動物供養塔計画中です。かわいがっていたペットたちのお墓です。春頃までには完成予定。

焼骨であればどんな動物でも OK です。仏教では人間も動物も植物も同じ命。法令と一緒に埋葬が出来ないので、せめて同じ境内に葬ってやりたいと思っています。完成次第、埋葬希望の方を募集いたします。

宝泉寺 042 (661) 3353

ホームページ <http://www.housenji.net/>
E-mail info@housenji.net/

霊園管理事務所から 霊園だより



早いもので、もう師走となりましたが皆様いかがお過ごしでしょうか。

この年末、年始とも管理事務所には私どもが待機しておりますのでお花お線香のご利用はもちろんのこと墓参の際に一休みするのにご利用ください。また、墓石工事花立てや卒塔婆立ての修理など気になることがありましたら、お見積もりだけでも致しますのでお気軽にお問い合わせください。

八王子南霊園 管理事務所 畑山